

巻頭言

福山平成大学看護学部紀要（第4巻1号）の発刊に寄せて

福山平成大学看護学部
学部長 木宮 高代

福山平成大学看護学部は2007年4月に開設し本年で17周年を迎えます。開設2年後の2009年4月に大学院看護学研究科修士課程開設、2011年4月に助産学専攻科を開設しました。その間、学部・大学院・助産学専攻科の歩みを止めずに今日まで前進してきており、多くの卒業生・修了生が巣立っています。これまでの学部の発展とともに、教員、卒業生や修了生は、多くの研究活動や社会貢献・学会活動に積極的に取り組んでいます。

看護学部では2023年度に「日本科学振興機構（JST）さくらサイエンスプログラム」に採択され、タイ王立プリンス・オブ・ソンクラー大学看護学部（PSU）の学生・教員を本学へ招聘し、国際学術交流を実施しました。さらに2024年度も2年連続で「日本科学振興機構（JST）さくらサイエンスプログラム」に採択され、2025年2月に昨年同様、PSUの学生・教員を本学へ招聘し、国際学術交流を実施します。

2024年11月にはタイ王立プリンス・オブ・ソンクラー大学看護学部（PSU）と本学看護学部との学術協定を締結し、国際的な看護教育および研究交流のさらなる発展へ向けた重要な一歩となりました。

今回、「福山平成大学看護学部紀要」の第4巻第1号を発刊するに至りました。福山平成大学看護学部紀要の内容を通して福山平成大学看護学科がどのような研究や教育に取り組んでいるかを伝達する貴重な機会を得ていると考えています。

また、看護教育・看護実践における現状や課題を認識し、課題解決や質的向上のための研究の意義や重要性をどのように認識しているのかを示す機会ともいえるでしょう。福山平成大学看護学部紀要第4巻第1号では、6篇の論文が掲載されており、大学や大学院での教育・研究活動の成果を発表しています。

国際秩序の脆弱性、少子高齢化の世界的加速により世界中が大きく翻弄されるなか、看護の役割はより一層重要性を増し、将来を見据え、社会に寄与する看護研究が求められています。福山平成大学看護学部紀要の場が多くの看護実践者や教育・研究者にとっての研鑽の場であり、研究成果の活動の場となりますようお願い、さらなる発展の期待を込めて、巻頭の言葉といたします。